

授業科目等の概要

(医療専門課程 柔道整復学科)														
分類	授業科目名			授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
										講義	演習	実験・実習・実技		
必修	選択必修	自由選択		スポーツ栄養学	食物、人体、環境要因という栄養学の基本を総合的に学び、健康の維持・増進、そしてスポーツ選手の競技力向上に果たす栄養学の役割を十分に理解する	1 前	30	2	○			○	○	
2	○			スポーツ心理学	人間関係の中で生じる心理現象について広く理解し、スポーツの現場や運動指導、または施術などの臨床現場で患者との良好な関係を形成、維持するための応用的な思考を身に付ける。	1 前	30	2	○			○	○	
3	○			情報リテラシー I	モバイルデバイスやネットワーキング テクノロジーから仮想化、クラウドコンピューティングなど、今日のコアテクノロジーを理解する	1 前	30	2	○			○	○	
4	○			デジタルツール実践 I	スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。	1 前後	90	2			○	○		○
5	○			解剖学 I	人体の正常な構造と機能を統合的に学習し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎知識を身につける。	1 前後	60	4	○			○	○	
6	○			生理学 I	生体(人体)の各系統における基本的な機能を理解する。	1 前	60	4	○			○	○	
7	○			社会保障制度	社会保障制度近年、医療保険制度改革を始め、柔道整復師を取り巻く環境やしくみは大きく変化している。そのため社会保障制度のなかでも柔道整復師に必要な、皆保険制度、療養費の支給について学ぶ	1 後	15	1	○			○	○	
8	○			公衆衛生学・衛生学	医療と保健衛生との関わり、生活において健康とは何かを学習する。	1 前後	60	2	○			○		○
9	○			基礎柔道整復学 I	柔道整復師の業務の中で最も重要な骨の損傷の基礎を学ぶ、また関節可動域測定を学ぶ	1 前後	60	2	○			○	○	
10	○			基礎柔道整復学 II	柔道整復師の業務範囲である脱臼と関節の損傷の基礎を学ぶ、また体幹の損傷頸関節損傷を学ぶ	1 前後	60	2	○			○	○	
11	○			臨床柔道整復学 I	柔道整復学総論を通じ、各論に繋がる骨折、脱臼、軟部組織損傷に伴う損傷の知識を習得する。	1 前後	60	4	○			○	○	

12	○		基礎実技 I	柔道整復師は、緩まず確実かく合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術を習得。	1 前 後	90	2			○	○	○	
13	○		基礎実技 II	柔道整復師は、緩まず確実かく合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を行う。ギプスも行う。	1 前 後	90	2			○	○	○	
14	○		臨床実習 I	柔道整復師として患者の主訴を理解するために体表解剖を学ぶ。	1 後	45	1			○	○	○	
15	○		臨床柔道整復学 II	指導管理と最も多く遭遇する捻挫・挫傷など軟部組織損傷を学ぶ	1 前 後	60	4	○		○			
16	○		運動学	運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目的とする。	2 前	30	2	○			○		
17	○		病理学	疾病の成り立ちを学ぶことは柔道整復師に必須の学習である。多彩な問題演習を通じ病理学の知識を習得させる。	2 前	30	2	○			○		○
18	○		一般臨床医学	一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを、臨床の場において多い代表的な疾患について学習する。	2 前 後	60	4	○			○		○
19	○		整形外科学	運動器の基礎知識と診察法、種々の検査法、治療法、スポーツ整形外科、リハビリテーションならびに 各疾患別各論と身体部位別疾患について整形外科領域の専門的知識の修得を目的とする。	2 後	30	2	○			○		○
20	○		外科学概論	外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常の臨床の場において遭遇する多くの代表的な外科疾患を学ぶ。さらに実用的な内容にも触れ適切な治療ができるような知識を身につける。	2 後	30	2	○			○		○
21	○		リハビリテーション医学	患者の持つあらゆる障害に対処していかなければならぬリハビリテーション医学は、その需要がさらに広がっている。広い知識を身に付け社会の要請に応じられるような知識の修得を目指す。	2 後	30	2	○			○		○
22	○		柔道実技 II	柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	2 前 後	90	2			○	○	○	
23	○		臨床柔道整復学 III	1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。	3 前 後	60	4	○			○	○	
24	○		臨床柔道整復学 IV	1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。	3 前 後	60	2	○			○	○	

25	○		柔整実技 I	1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。	2 前 後	90	2			○	○	○		
26	○		柔整実技 II	医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	2 前 後	90	2			○	○	○		
27	○		柔整実技 III	柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	2 前 後	90	2			○	○			
28	○		臨床実習 II	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを見学して学ぶ。	2 後	45	1			○	○	○		
29	○		解剖学 III	柔道整復師になるにあたって必要な解剖学の知識を学習する。十分な演習を通じて知識の定着を目指す。授業では板書、配布レジメをおもに使用する。	3 後	30	2	○			○		○	
30	○		柔道整復術の適応	柔道整復術の適応と非適応を知り医師との連携を考えることが出来るようにすることを目的とする	3 後	30	2	○			○		○	
31	○		柔道実技 III	認定実技審査に向けた総仕上げをし、全員合格できるように授業をすすめる	3 前	45	1			○	○	○		
32	○		関係法規	柔道整復師として必要な法的知識、その教育を通して柔道整復師としての倫理観の徹底、順法精神の涵養等、医事関係法規を学ぶ。	3 前 後	30	2	○			○	○		
33	○		基礎柔道整復学 III	1・2年生で学んだ柔道整復理論基礎の復習を行い知識の整理と共に深く学ぶことを目指す。外傷保存療法の経過および治癒の判定を含む。	2 前 後	60	2	○			○	○		
34	○		臨床柔道整復学 V	骨折・脱臼・捻挫・打撲の治療の参考にするための超音波画像を学ぶ。 柔道整復術適応の臨床的判定・医療画像の理解を含む	3 前 後	60	2	○			○	○		
35	○		臨床柔道整復学 VI	柔道整復師が施術所で使用する物理療法機器等の取り扱いを学び、安全に人体に使用できるようになる	3 前 後	60	2	○			○	○		
36	○		柔整実技 IV	柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	3 前 後	90	2			○	○	○		
37	○		柔整実技 V	柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。	3 後	90	2			○	○	○		

38	○		柔整実技VI	柔道整復師が実際に触れる外傷で、認定実技診査項目を学ぶ。柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す	3 前後	135	3			○	○	○	
39	○		臨床実習III	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。	3 後	45	1			○	○	○	
40	○		臨床実習IV	柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを学ぶ。また、接骨院だけでなく介護施設や病院での働き方を学ぶ	3 後	45	1			○	○	○	
41	○		情報リテラシーII	モバイルデバイスやネットワーキング テクノロジーから仮想化、クラウドコンピューティングなど、今日のコアテクノロジーを理解する	2 後	30	2	○		○	○	○	
42	○		保健体育	スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。	1 前後	90	2			○	○	○	
43	○		解剖学II	柔道整復師となるにあたって必要な解剖学、すなわち人体の構造の知識を得ることを目的とする。十分な演習を通じ知識の定着を計る。	2 前	30	2	○		○	○	○	
44	○		生理学II	生体（人体）の各系統における基本的な機能を理解する。	3 前	30	2	○		○	○	○	
45	○		職業倫理	一般的な職業倫理を理解することで柔道整復師	2 後	15	1	○		○	○	○	
46	○		柔道実技I	柔道整復師として柔道を正しく理解するために、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。	1 後	45	1			○	○	○	
47	○		基礎柔道整復学IV	1・2年生で学んだ柔道整復理論基礎の復習を行い知識の整理と共に深く学ぶことを目指す。外傷保存療法の経過および治癒の判定を含む。	2 前後	60	2	○		○	○	○	
48	○		基礎柔道整復学V	基礎柔道整復学を学んだことを基により高度な知識と技術を習得するとともに説明し実践することができる。	3 前後	60	2	○		○	○	○	
49	○		基礎柔道整復学VI	基礎柔道整復学を学んだことを基により高度な知識と技術を習得するとともに説明し実践することができる。	3 前後	60	2	○		○	○	○	
50	○		デジタルツール実践II	スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。	2 前後	90	2			○	○	○	
合計					50	科目	2805 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法				授業期間等		
卒業要件： 学科の教育課程に定められた必修科目のうち、卒業学年度までに履修				1学年の学期区分		2期

履修方法：単位修得制	1 学期の授業期間	15 週
------------	-----------	------

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。